

申請国清浄で疫蹄口

産地に安堵広がる

和牛肉価格上げ期待

食肉輸出の早期再開に向け農水省が6日、国際獣疫事務局(OIE)に口蹄(こうてい)疫の「清浄国」への復帰を申請したことを受け、生産者団体や流通関係者は安堵(あんど)の表情を浮かべる。国内で消費できない和牛肉が一定量、海外に向けられることで、需給安定と枝肉相場の回復に期待が掛かる。

和牛の場合、A4等級 ホテルなどの業務筋、または海外に輸出され、A3等級以下はスーパーでは高級レストランやAの小売りに回るなど、す

み分けができていた。しかし、4月に宮崎県で口蹄疫が発生して以降は、輸出が滞ったことで上位等級ほど相場が低迷するという状態が続いていた。

見込める」と歓迎する。和牛肉をマカオへ輸出しているミートコンパニオン(東京都)の植村光一郎常務も「ロースをはじめとした高級部位が輸出に向けられることで、価格浮揚が期待できそう」と話す。

J A宮崎経済連用牛課は「他県の方には迷惑をかけた。米国などへの輸出がストップし、枝肉相場低迷の一因にもなった。輸出再開ができれば業界にとって朗報。農家も元気が出て経営再開を後押しする要素にもなり得る」と期待する。

長野県茅野市のフランズ料理店「エスポワール」オーナー・シェフの藤木徳彦さん(39)は、

兵庫県を指導の振興

る。「地

学校農ク全国大会開幕

技術・研究競う

北海道

日本学校農業クラブ連盟や同北海道連盟、南北業クラブ連盟の結成60周年を記念した大会で、全国のクラブ員5000人が

いた知識や技術、研究成果を披露した。岩見沢市の市民会館・文化センターでのプロシ

挑んだ。岩見沢農高では北海道物産展やクラブ員代表者会議、分科会などを実施。

収穫の望待

東京・秋葉原の日本農業新聞本社屋上で6日、秋葉原にあるメード喫茶などの店員らと米やハーブ作りに挑戦する特定非営利活動法人(NPO法人)リコリタが、バケツ稲を収穫した。

がら世話をしてきた。参加した7人のメードさんは、44個のバケツの稲をはさみを使って次々に収穫、はさ掛けした。

収穫を終えたメードさんは、「収穫ができて、達成感

厚生省

きのこが

売された

よる食中

ることを

防止を徹

道府県に

9月以

きのこに

件。青森

福島、栃

石川の各

症し、患